

県産広葉樹78種の種子の発芽特性

発芽は播種当年か翌年か

1 研究のねらい

造林用あるいは緑化木用の広葉樹の育苗技術のうち、本県のような寒冷地方での発芽特性を明らかにする。

2 材料と方法

- (1)本県内に自生、あるいは植栽されている78種類を対象とした。
- (2)種子は1993～1995年に採取して、ポリ袋に入れて4℃で保存し、翌春に播種した。
- (3)播種は、矢巾町煙山にある林業技術センター育苗畑で行い、播種育苗管理は、一般的な方法によった。
- (4)発芽した苗は秋に掘り取って、その本数を記録した。小さい苗及び発芽が見られない播種床はそのまま放置して翌年に発芽を調査した。

3 結果

主として当年に発芽したものは、コナラ、トチノキ、サワグルミ、イタヤカエデ、キハダ等27種であった。

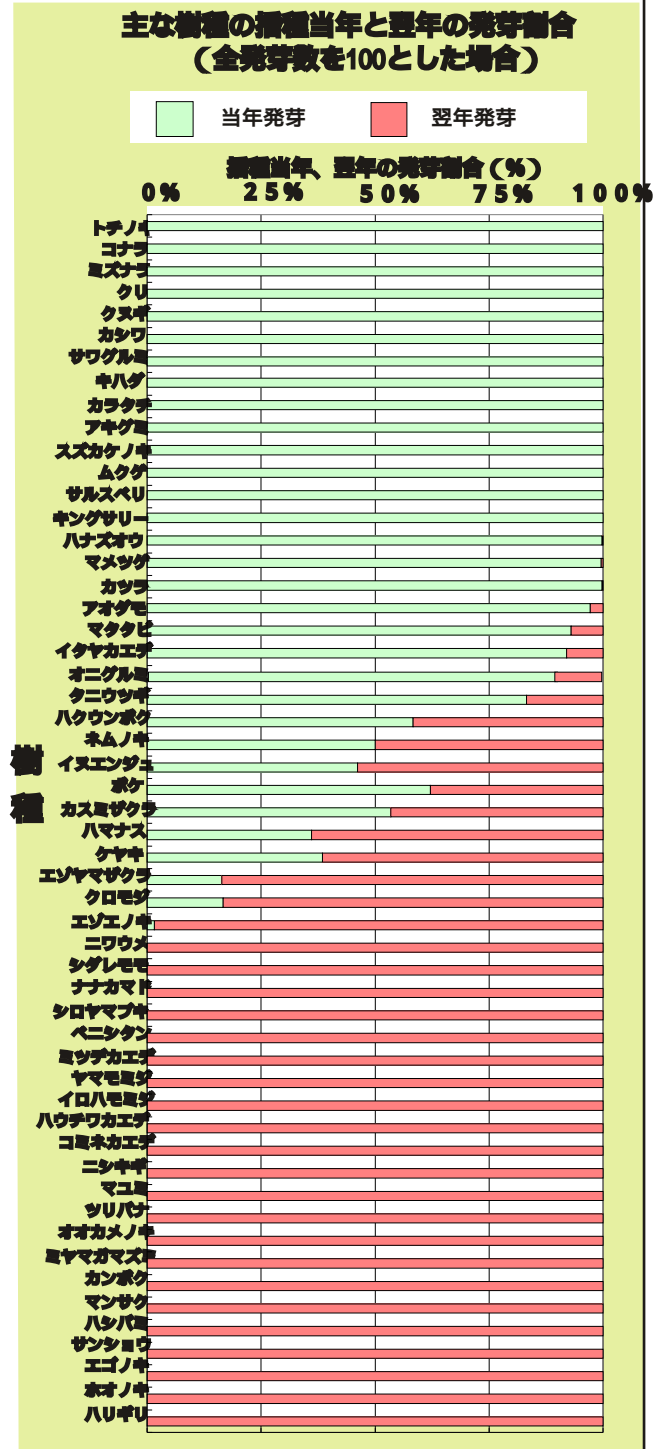
主として翌年に発芽したものは、エゾヤマザクラ、エゾエノキ、ナナカマド、エゴノキ、ハリギリ等35種であった。

当年と翌年にほぼ同じ程度発芽したものは、イヌエンジュ、ハクウンボク、ボケ等7種であった。

4 成果の活用と今後の進め方

広葉樹の苗木生産の参考とする。

今後、床替えから山出しまでの育苗方法、種子の発芽促進方法、保存方法などについて調査する予定である。



(担当 育種緑化部 専門研究員 神山博希)